

阿保まちなか拡大地図



菅笠日記の碑

「本居大人菅笠日記抄。

河づらの伊賀の中山なかなかに見れば過うき岸のいはむら（川のふちの中山は、話にたがわずなかなかの眺めで、行き過ぎるのが惜しいくらいだ） 宣長

かくいふはきのふこえしあほ山よりいづる阿保川のほとり也、朝、川わたりて、その河べをつたひゆく、岡田別府なんといふ里を過て左にちかく阿保の大森明神と申す神お

はしますは大村の神社などをあやまりてかくまうすにはあらじや、なほ川にそひつゝゆきゆきて阿保の宿の入口にて又わたる、昨日の雨に水まさりて橋もなければ衣かゝげてかちわたりす、水いと寒し。明和九年三月六日」

「昭和卅一年四月吉祥日、山本隆夫、建之」

【菅笠日記】松阪の国学者本居宣長が門人たちと初瀬街道を通過して吉野旅行をした日記。街道一の難所だった青山峠を、雨にぬれながら越えてきて夕刻おそく伊勢路に着いた時のよろこびのさまがみえる。翌朝、伊賀の中山で前日の雨で増水した木津川を衣をかかえて渡った。その折、冒頭の一首を読んだ。帰路、飛鳥周辺の史蹟を探索、伊勢本街道を通り松坂に帰郷した。

【本居宣長】[1730～1801]江戸中後期の国学者。伊勢松阪の人。古事記、源氏物語など古典文学の研究にすぐれた業績を残した。また、復古思想を説いて儒教を排し、国学の思想的基礎を固めた。著「古事記伝」など。

一里塚

街道で一里ごとに道の両側に土を盛り、エノキなどを植えて、距離を示す目印とした塚。江戸幕府により全国に設置。

・石神の銘大神宮は伊勢神宮のこと。



旧阿保宿町並み

近世においては初瀬街道の宿場町として御茶屋（本陣）、問屋（物資・通信の中継所）を備え商業が許可された「町」の体裁を備えた要衝だった。



近世の阿保宿

伊賀まちかど博物館 若ゑびす吟醸館

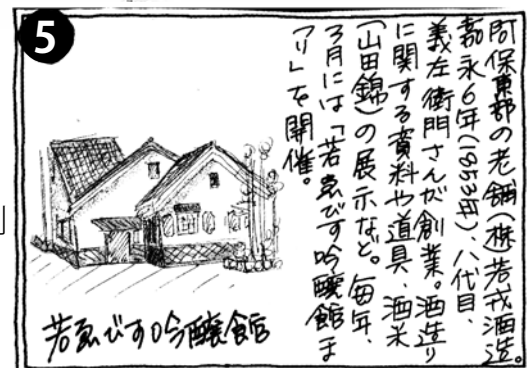
全量自社ブランド販売
蔵の見学

10名様前後～40名様までの予約制
〈休館〉土曜・日曜・祝日
(8月、12月は全日)

初瀬街道交流の館「たわらや」

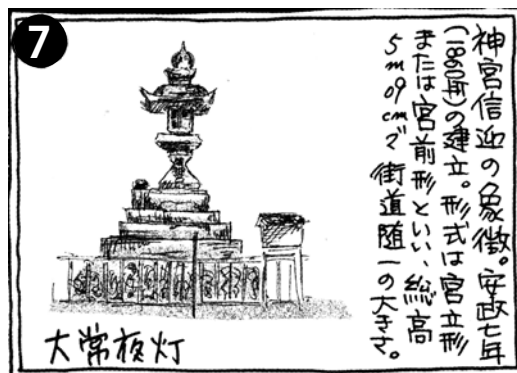
旅籠「たわらや」を改修し街道遺産である参宮講看板を保存・展示。

・「講」は所属者がお金を出し合い、それらを合計して代表者の旅費とする仕組み。くじで選ばれた者は「講」の代表者として伊勢へ旅立つことになる。「講」が泊まる定宿や御師を定めていて、定宿には講名を記した板の看板を置き、定宿契約のしるしとしたのが講看板。



大常夜灯

幕末当時の伊勢参宮客は、およそ年間 40 万人、文政 13 年 (1830) の「おかげまいり」のときには、約 500 万人の参宮客があった。そのころ、街道沿いには街灯に当たる常夜灯がいくつも建てられ、夜になると灯がともった。これらの常夜灯の寄進者には武州岩槻 (現埼玉県) の木綿問屋、「松前江指」や「箱館」、すなわち北海道の人の名前も見らる。



息速別命墓 (いそはやわけのみこと)

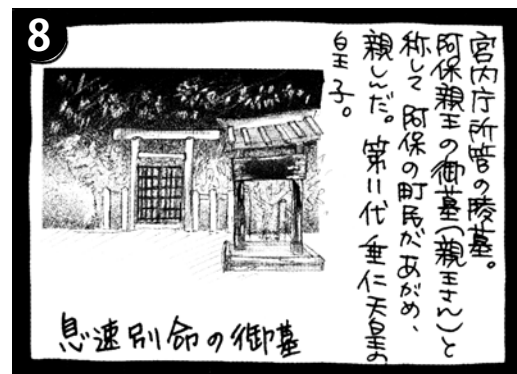
方墳、直径 35m、頂高 5.5m、埴輪、環濠を持ち後期 (6 世紀) 始めの古墳。親王塚とも言う

・息速別命は垂仁天皇王子、生母は妃薊瓊入媛 (あざみにいりひめ)、初代斎宮とされる倭姫命の異母弟。沙本の穴太部之別の祖、記紀には阿保との関係は書かれていない。

・続日本紀に「昔、伊賀国阿保の村に皇子 (息速別命) はいた。允恭天皇 (いんぎょうてんのう) は皇子四世の孫須禰都斗王 (すじつけのきみ) に阿保君の姓を賜った。武蔵介と武部朝臣上人はその子孫なので雄略天皇は其々阿保君と阿保朝臣の姓を賜った」という記述がある。

・新撰姓氏録 (8-9 世紀) には息速別命が幼少の時、皇子なので伊賀阿保村に宮室を築き封ずるという記述がある。

大村神社の御祭神で阿保氏の祖と仰がれている。



阿保頓宮跡

・最初の記録は壬申の乱で大海人皇子が焼いた伊賀駅屋 (いがのうまや) がここと言う説がある。

・持統天皇が伊勢に行幸の際、阿保の頓宮で宿泊した (日本書紀)。

・聖武天皇の東国行幸の際、阿保の頓宮に宿泊した (続日本紀)。

・伊勢斎王の阿保頓宮利用は長く記録されており、期間は飛鳥奈良時代から南北朝あたりまで 17 回。常設されていた。

これらの頓宮跡とされる場所は伝承と地形的な状況から考えてこの場所と考えられる。

【中世城郭として】

現在の遺構は中世城郭跡。

・一般に平地の居館は屋敷を方形に土塁で囲み、山城は尾根上に連郭式で築くのが一般の中世山城である。しかし伊賀では山地に方形単郭四方土塁の館城とも言うべきものを築く。しかも初期の物は尾根の中腹に築かれていることが多い。阿保城も尾根の中腹に高い土塁 (3.5 m) で囲んでいる。土塁内 23 × 24 m。

・城主は戦国期に阿保城主安保若狭守の名がある。秀吉の時、筒井定次の家臣の岸田伯耆と記録される。

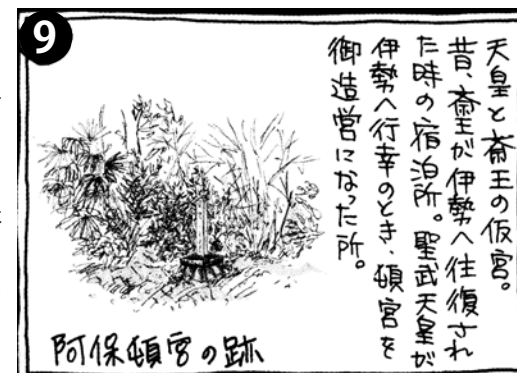
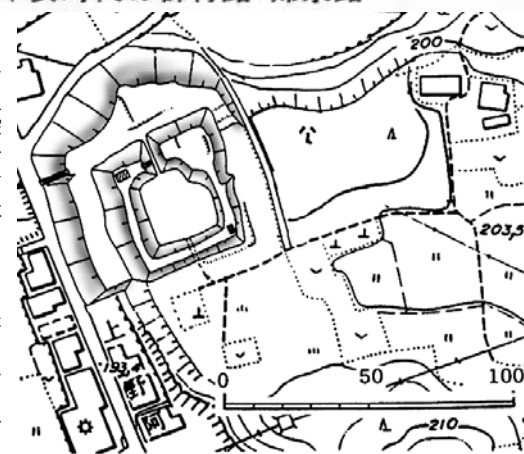


図 平安時代の群行路・帰京路



阿保城 (岸田伯耆城) (1981.3.22 測量)

おせいき地蔵

慈福寺は阿保字上代の高台にあったのを天正の乱で消失現在に移転。旧蹟には念仏坂の名が残る。

10



慈福寺

(山号・高原山) 宗派は浄土宗
(総本山は京都の智恵院)
浄土宗伊賀新2番霊場。
本尊は阿弥陀如来立像。
室町時代の作の古い同如来
座像もある。
境内には子あすけの地蔵さん。
おせいき地蔵が祀りされている。

笛吹き山 金性寺

阿保西部を笛吹きの里と呼び大村神社の有る東部を森の里と呼んだという。

11



金性寺

(山号・笛吹き山) 高野山真言
宗(総本山は高野山の金剛
峯寺) 真言宗伊賀四国
第24番霊場。
本尊は薬師如来座像。

伊賀まちかど博物館 大村神社

延喜式神名帳に載る古社。阿保氏族の始祖 息速別命を祀る。

此の地域一帯の守り神、地震除災の神として信仰を集める。地震よけ守り神の「要石」がある。

宝殿は天正15年(1587)創建、重要文化財。

・江戸時代、春日大社が勧請され武甕槌が主神のように扱われた、鹿嶋宮としている棟札もある。要石は鹿島社に見る(タケミカツチが上から押さえている)。氏子は阿保、羽根、別府、寺脇、岡田、柏尾、川上。

神宮寺の禅定寺は明治に廃寺となり、大般若経や十一面観音(重文)は共に宝蔵寺に移された。

・日本三大奇鐘「虫食い鐘」は明暦2(1656)年作の銘文がある。禅定寺の和尚が梵鐘建造を発願し、豪家の主人が家宝の鏡を寄進した。造鐘にさいして鏡を鋳込んだ。この鏡は魔鏡で鏡を寵愛していた豪家の一人娘がぼっくり死んだ。一夜、この娘の亡霊が坊僧の枕もとに立ち、愛鏡が鋳込まれたうらみを残して消えた。翌朝、坊僧が鐘楼へ行くと鐘瘤が一つ落ち、瘤はつづいて一つ二つと落ちていった。

13



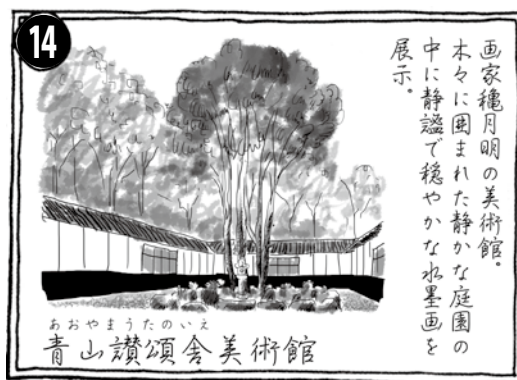
大村神社

地域の中心の古い神社。古く大きく森に囲まれた大境内に立派な社殿の大村神社は、大昔阿保地区の開拓に尽力した息速別命を大村神としてお祭りした。始めは、宝蔵寺の要石、虫食い鐘などがある。

伊賀市 ミュージアム青山讃頌舎

画家穂月明が長い間温めていた仏教美術を中心に東洋文化をテーマとした美術館。

画業を始めた頃より集めた古美術や貴重本をなど膨大な資料を所蔵。絵画作品と共に独自のこだわりを持って作り上げた庭園と茶室も公開。



阿保周辺遺跡地図

阿保周辺にも無数の古墳と山城が点在する。

- 古墳群
- 指定文化財
- 城跡

